

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）  
 A：十分達成できている  
 B：おおむね達成できている  
 C：やや不十分である  
 D：不十分である

学校名	鳥栖市立田代中学校		
1 前年度 評価結果の概要	・主体的・対話的で深い学びの実現のためには、児童生徒が自ら「学び」に向かい、他者と協働して深く学ぶことが必要である。自ら学びに向かうことを促すためには、みんな一緒ではなく、一人一人にあった課題に取り組むことも必要である。個別最適な学びを実現するためには、タブレットなどのICTの導入が不可欠となる。問題演習を繰り返してできるものや、児童生徒の課題の進捗状況を教員が確認できるものなど教科の枠を超え、ICTの効果的な活用を進めていく必要がある。 ・本校は、500人を超える自転車通学生がおり、自転車運転のマナーの向上が継続した課題である。幸い大きな事故はなかったものの、自動車、自転車同士の接触事故や転倒などの自損事故が今年度だけで30件以上発生した。交通安全教室を2度実施することにより交通安全意識の向上に努めたが、さらに全職員による継続した指導を行うとともに、PTAや地域と連携して一層の安全教育の推進を図ってきたい。 ・不登校や不登校傾向の生徒など学校不応の生徒が増えてきており、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関とのより一層の連携を図ることが次年度の課題である。		
2 学校教育目標	夢に向かって目標をもち、チャレンジする生徒の育成 ～ 自主性・自律性・寛容性の向上をととして「公の場で通用する人」をめざそう！～		
3 本年度の重点目標	① 安心・安全な教育環境づくり【いじめのない学び合う集団の形成など】 ② 授業力・教師力の向上【校内研究会の充実、教師の学び合いなど】 ③ 各種行事や活動のクオリティアップ【田代中版「KAIZEN」など】 ④ 開発的な生徒指導の展開【一貫性のある指導、自主性のリクエストなど】 ⑤ 褒め・支え・励まし合う人間関係づくりの推進【生徒会活動の活性化、不登校未然防止対策強化など】		

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目				最終評価			学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果			評価
●学力の向上	○見通しを持って主体的に学びに向かう生徒の育成を目指し、全職員で授業改善を行う。	○授業に主体的に参加したと回答した生徒の割合が80%以上。	・「授業づくりのステップ1・2・3」のステップアップを目指し、実践段階を向上させる。 ・全ての教科で重点目標を掲げ、授業研究会を実施する。	A	・授業に主体的に参加したと回答した生徒の割合が93.6%と目標の80%を大きく超えることができた。	A	・来年度も主体性を育むため、話す機会や活動する時間を確保して欲しい。 ・自分で考えて提案するプレゼンテーションを授業に取り入れてみては。	・学力向上コーディネーター ・研究主任
	○児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会的、倫理的や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動。	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒の割合が75%以上。	・思考や価値判断を伴う道徳の授業が毎週展開できるよう、学年で協力しながら教材研究にあたる。	A	・道徳に関するアンケート項目において肯定的な回答は、生徒は90%、保護者は80%を超えている。しかし、道徳の時間を他の内容に振り替えている学年も見られることが課題である。	A	・多様性を認めるという価値観を、どのように子どもたちに広め、浸透させていくのかが大切である。インクルーシブ教育も充実させていくべきである。	・道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当
●心の教育	○いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実。	○安心安全に過ごせる学び合う集団であると回答した生徒の割合が75%以上。	・年10回以上の生活アンケートを実施。 ・いじめのちを考る日の毎月実施。 ・週毎の生徒指導委員会にて、いじめ事案の経過を確認する。	A	・アンケートの結果、中学校で安心して生活することができていると回答した生徒は、92.9%のほり、目標の75%を上回った。引き続き早期発見を意識した対応を継続する必要がある。	A	・アンケートに生徒が困り感をきちんと書いてくれていることはとてもいいことだと思う。来年度も早期発見・早期対応を大切にしたい。	・生徒指導主事 ・教育相談
	○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒75%以上。 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上。	・系統的なキャリア学習の展開やキャリアパスポートの効果的な活用を通して、中・長期の展望を持たせる。 ・進路に関する掲示物の整備や講演会の実施を通して、進路に関する関心を高める。	B	・アンケートの結果、肯定的な回答は生徒74.8%、保護者72.7%と目標にはわずかに届かなかったが、各学年の取り組みが成果につながっていると判断できる。反面、肯定的な意見が持たない生徒への対応が検討課題である。興味・関心の持てる内容設定であったり、生徒理解をもとに個別の働きかけを進めていくことが考えられる。また、家庭への協力を呼びかけ、親子で考えていく雰囲気も必要であろう。	B	・「自分の親の仕事調べ」を取り入れ、発表会でシェアリングすることで、より具体的なキャリア学習ができるのではないかと。 ・今まであった仕事がなくったり、今まで無かった仕事ができたりと、生徒の職業選択はとも難しくなってきたと思う。その分、キャリア学習の重要性も高まるので、今後も系統的なキャリア学習の推進に努めていただきたい。	・進路指導主事 ・各学年進路担当
	○生徒会活動の活性化を通じて、支え合う人間関係づくりを推進。	○不登校生徒数(出現率82%)を、前年比で減少させる。	・生徒会の自主性を高める活動推進。(各種行事の実行委員会制、号令なし集会、校則の見直し等) ・不登校未然防止対策プロジェクトの立ち上げ。	B	・生徒会主体で様々な行事を運営することができたので、今後も引き続き行っていい。 ・校則検討委員会の進行状況や予定についてよく把握し、計画的に委員会を実行していきたい。 ・「仲間に対して思いやりで接し、困っている人に手助けをしたり、温かく優しい言葉がけをしたりすることができている」と答えた生徒が90%以上を超えられた。	B	・今後も実行委員会形式の取り組みを継続し、主体性の育成を進めて欲しい。 ・校則は常にアップデートする感覚で改定を進めていくのがよいと思われる。 ・不登校生徒の数が増えているので、不登校改善の対策を進めて欲しい。	・生徒会担当
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「健康に良い食事をしている」児童生徒70%以上。	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上。 ②田代スタイル(無言清掃・時間・あいさつ)の実践率を、前年度比から向上させる。 ③「健康に良い食事をしている」児童生徒70%以上。	・部活動の推進及び地域移行への準備。 ・田代スタイル(無言清掃・時間・あいさつ)の取り組みを、生徒会活動の活性化を通して推進する。 ・給食や家庭科の授業等を通して、望ましい食習慣と食の自己管理の大切さを指導する。	A	①生徒が運動やスポーツを行える環境と、安心・安全に運動やスポーツに親しめる環境づくりを引き続き行っていい。 ②田代スタイルの3つの項目を意識しながら生活することができた生徒の割合が、どれも80%を超えることができた。 ③五大栄養素のはたらきをはじめ、成長に関わる重要な役割について理解できるように、献立作成を課題に身につけた。し「好」に関しては家庭環境が関わっているので、今後の課題と捉えさせた。	A	・無言清掃は、掃除の質を高める取り組みだと思ふ。是非、継続していただきたい。 ・使用したグラウンドやロッカーをきれいにする日本人の習慣は、学校の清掃指導にあると思う。 ・田代スタイルは、将来のような仕事に就いたとしても最も重要な資質である。継続して高めていただきたい。	・部活動担当 ・生徒会担当 ・給食担当 ・家庭科主任
	○「安全に関する資質・能力の育成」	○生徒の交通自転車事故防止啓発を強化し、事故率を前年度比で50%減少させる。	・交通安全教室の複数回実施。(特に1年生) ・PTAと連携して自転車点検や通学路点検を実施する。また、年間を通して啓発を続ける。	B	・事故率が前年度比で30%減少(昨年度30件、今年度20件)させることはできたが、目標の数値まではいかなかった。1月末に1年生対象の交通安全教室を実施したが、繰り返し事故防止啓発を続けていきたい。	B	・早朝の無灯火の自転車がとても危険なので、指導をお願いしたい。 ・粘り強い繰り返しの指導が大切である。	・安全指導担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定及び徹底。 ・管理職による職員の勤務実態の把握。 ・会議・行事等の縮減を図る。 ・業務の組織的運営と平準化を図る。	B	・91%の職員が、業務の効率化を図ることを意識している。また、1年間の時間外在校等時間は、平均41時間であった。うち80時間超の職員もおり、業務の幅りをなくすことが課題である。	B	・学校の先生が病気になることがないよう、これからも校務の効率化の工夫を続けていって欲しい。	・管理職
	○コロナ禍後の行事の見直し。	○各月の企画委員会において、「戻す量」に注視した話し合いを慎重かつ丁寧にいう。	・縮小や制限をしてきた行事について、各種行事の効果や目的等を丁寧に検討する。	B	・時間短縮やオンライン配信の活用を検討しながら、行事の見直しを行った。今後も継続的に検討が必要である。	B	・学校行事の見直しをする際、子どもの気持ちを加味することが一番大切。 ・学校行事にPTA(保護者)の参加を加えて欲しい。	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果			評価
★小中一貫教育の充実	★教科「日本語」の実践充実。	★保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業公開学級率80%以上。 ★保護者等に対する教科「日本語」に係る情報を年間3回以上公開した学級率80%以上。	・年間授業時数の確実な実施。(1年生20h、2・3年生35h) ・特別非常勤講師を招聘した体験活動の充実。(茶道、着付け、俳句・川柳等)	B	・生徒の考えに対して保護者からコメントを書かせるなどして、授業公開を行った。 ・66.7%の教員が学級通信等を活用し、保護者に活動内容を知らせることができたが、目標を達成できなかったため、学級通信以外での保護者への情報提供の仕方を検討する必要がある。	B		・教師もともに楽しみ、学びながら、来年度も教科「日本語」の充実を図って欲しい。 ・道がつかもの学習を取り入れることはとてもいいことだと思うので、継続して取り組んで欲しい。
★佐賀県教委研究指定・外国語教育の推進	○英語科教育の実践充実。	○教科研究会の実施。(上期3回以上) ○小中連携による英語教育の推進。 ○研究発表会の実施。	・校内研究の一環としての取り組み。 ・小学校授業へ英語科教師を派遣。 ・研究発表会の開催。(11/10予定)	B	・教科研究会の実施に関して、研究発表後に実施することをできていないので、来年度以降の見直しをたてるために実施する必要がある。 ・研究発表会で得た学びについて意見交換する場の設定が不十分であった。	A	・英語に興味のある生徒が多く、英文による読み聞かせも熱心に聞いている。 ・英語を使う(話す)ことができる生徒が増えているので、来年度も演習を充実させて欲しい。	・英語科主任
★コミュニティスクール(学校運営協議会)の機能推進	○機能推進、地域人材の活用、地域貢献・奉仕活動等の推進など。	○年5回の協議会開催。(授業参観含む) ○地域人材の活用、地域貢献・奉仕活動等の実践。(昨年同等+α)	・年間計画を立て、効果的に実施。	B	・年間4回開催した協議会で教育活動の報告を行い、会での熱議を学校運営に生かすことができた。 ・コミュニティスクールの意義や活動内容について理解している教職員は69.8%に留まり、学校内での啓発活動が不十分であった。	A	・多くの生徒が、地区の清掃ボランティアに積極的に参加してくれて、とても嬉しかった。 ・地区のお祭りやイベントにも中学生がボランティアとして参加してくれてありがたかった。	・管理職

5 総合評価・次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・本年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の「1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか」という問いに対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国や県と比べて大きく下回っていた。これからの社会を生き抜く力の育成や個別最適な学びの実現のためには、タブレットなどのICT機器を使いこなすことが必要である。来年度は校内研においてもタブレットの効果的な活用について研鑽を深めたい。 ・本校は、500人を超える自転車通学生がおり、自転車運転のマナーの向上が継続した課題である。幸い大きな事故はなかったものの、自動車、自転車同士の接触事故や転倒などの自損事故が今年度だけで30件以上発生した。交通安全教室を2度実施することにより交通安全意識の向上に努めたが、さらに全職員による継続した指導を行うとともに、PTAや地域と連携して一層の安全教育の推進を図ってきたい。 ・不登校や不登校傾向の生徒など学校不応の生徒が増えてきており、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関とのより一層の連携を図ることが次年度の課題である。
----------------	--